

科目・分野	週時間数	コース	クラス	担当者
生物基礎	1	5教科型・国文選抜	B・C	黒田聖子
目 標	高校生物と化学の基本的な内容について、知識・理解・技能の定着と体系的な理解を目指す。興味・関心・意欲を持って自ら進んで学習活動に取り組み、科学的なものの見方や考え方を身につける。			
大切に育てたいもの	関心・意欲・態度	科学的思考力	実験観察技能	科学的知識
	学習や実験・観察に積極的に臨む態度。身の周りの実物や、メディアから得られる情報を、習得した知識に結びつけていく態度。	生物現象に対して、仮説を立て、論理的に考える力。疑問を解決できる力。	実験や観察における基礎的な機器の操作や観察技能の習得。結果をまとめる力。	理系分野の研究の基礎となる知識の習得。習得した知識と現実世界の事象との関係性を把握する力。

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	化学基礎分野 (高1の学習の続き)	酸・塩基の性質について学んだことをもとに中和反応、その量的関係について知る。
	期末	化学基礎分野 (高1の学習の続き)	物質の燃焼や金属の溶解などの化学反応が電子の移動を伴う酸化還元反応であることを知る。 酸化還元反応を電子の授受に基づいて理解する。 応用例として電池や電気分解について知る。
二学期	中間	化学基礎分野 (問題演習)	基礎的な問題演習を通じて、化学基礎で習得した知識の中で身につけていないものを見極め、確実に身につける。
	期末	生物基礎分野 (高1の学習の続き) 生物の体内環境・生体防御	自律神経系の構造とホルモンによる体内の維持管理について理解する。 獲得免疫に関係する身近な疾患について理解する。
三学期	期末	生物基礎分野 (問題演習)	基礎的な問題演習を通じて、生物基礎で習得した知識の中で身につけていないものを見極め、確実に身につける。
評価の方法		授業態度、定期テスト、課題、実験観察技能、出席状況など。	
学習活動の特徴		図を多く活用し、視覚的な理解をもとに、体系的な学びを進める。できるだけ実験や観察を行い、実物の提示をし、理解を深めるようにする。	
授業の形態		講義、実習(科学教室)	
使用教科書		『高等学校生物基礎』(第一学習社)、『新編化学基礎』(東京書籍)	
使用副教材		図説 『スクエア最新図説生物』(第一学習社) 問題集 『コンセプトノート生物基礎』(浜島書店)、『基本ステップノート化学基礎』(浜島書店)	
用意するもの		教科書、ノート、プリント、副教材(問題集、図説)	
備考			